

入野小学校 校長室だより

2015. 10. 30(金) No. 23 文責：芝

子育てを応援するには…

少し前のことですが、病院で見たことです。

2歳くらいの男の子をつれて来たお母さんが看護師さんの指示に従って男の子の体重を量ることになりました。看護師さんが壁際にあった体重計を10cmほど手前に引くと、その男の子はスリッパを脱いでちょこんと乗りました。様子が可愛かっただけでなく、自分からスリッパを脱いで乗ったのには『へえ〜』と感心しながら見たことでした。もう一つ『ふう〜ん』と思ったのは、体重を量ったあと、男の子がスリッパをはくのを見届けたお母さんがずっと体重計を壁に寄せたこと。私だったらスリッパをはかせることで体重計の存在を忘れてしまったかもしれません。当たり前のことをしただけかもしれませんが、行動の美しさを感じたことでした。

このことよりも更に前のことですが、やはり病院で見たことです。

4～5歳くらいの男の子が待つのに飽きてゴソゴソしていました。お母さんは注意し続けていましたが、何度も何度も注意しているうちに口調が厳しくなっていました。そんな時に病院に入ってきた女の子が男の子の友だちだったようです。気付いた男の子が呼びかけました。

「あっ、〇〇ちゃん、なんで来たが？」

それに対し、お母さんは、すかさず、「病気やけん来たに決まっちゃうやいか！そんなこと聞かれん！」

こんな返しが即座に出来るなんて、きっと頭の回転の速い人なんだろうなあと感心しました。感心しながら、子育て・子どもの成長に付き添っていくことの難しさも感じました。このお母さんも病院の待合室ということで、迷惑になってはいけないという思いから口調も厳しくなっていたことでしょう。男の子

も病院では静かにすべきというマナーを身につけていく時期ですから、お母さんの態度は必要なことです。

最近、ネットにこんな記事がありました。

横浜市交通局のバス車内にて

懸命に乳児をあやすが泣き止まないため、周りの客たちに頭を下げる母親へ、運転士よりアナウンス。

「お母さん、大丈夫ですよ、気にしないで。

赤ちゃんきっと眠いか、暑いか、お腹がすいてるんですよ。元気でいいですね。」

車内が一瞬にして和み、母親は安堵する。これぞプロフェッショナル。

少子化対策のため「次世代育成支援対策推進法」という法律があります。それが真に効力を発揮するには、このバスの運転手さんのような心と行動が必要なのでしょうね。記事を読みながら、お母さんの気持ちを推し量りながらも「病気やけん来たに決まっちゃうやいか！」の言葉に思わず下を向いて笑ってしまった自分を思い出していました。私に何が出来たのか、何が出来るのかは分かりませんが、子育てに頑張っている人たちへの暖かい気持ちと、時と場にふさわしい支援のある社会を作りたいものだと思います。

----- ◇ -----
ここまで入野小学校の子どもたちとは無関係な話・説教じみた話で申し訳ありません。ここから少しですが入野小学校の話題です。

朝会で「一輪車・竹馬の片付けが良くない」という話題が出た直後、さっそく6年生が整頓してくれました。それから数日後、6年生が一輪車・竹馬のそばを通った時に「一輪車・竹馬の整頓が良い」というようなことをつぶやきながら歩いて行きました。本当にうれしくて頼もしい姿です。上級生がより良い学校にする動きを見せてくれると、それが良い校風・良い伝統につながります。日没は早くなり、暗くなるのも早くなりましたが、明るい明日を感じさせてくれる出来事でした。